



教育厚生委員会報告



2026 年 6 月議会

第 57 号議案 **2026 年度一般会計補正予算(第 3 号)1 億 1.692 万円**

☆こども医療対策費 265 万円

0 歳児のこども医療費の自己負担分を 2027 年 1 月から無償化する予定でしたが、業務システムが予定より早く改修できる見込みが立ったため、開始時期を 2026 年 12 月からに前倒しすることになりました。そのひと月分の予算を補正するものです。



☆中学校部活動地域展開・地域連携費 2,307 万円

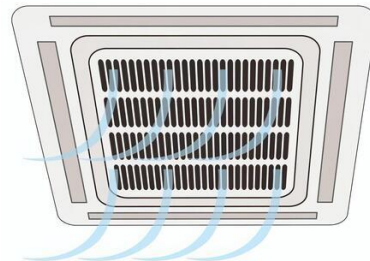


いま中学校の部活動で進められている、地域展開(休日の部活動の地域移行)の、認定地域クラブに対し、指導者の人件費や会場使用料、備品購入費などに充てる経費を補助する予算です。補助額は参加人数や活動頻度によって変わりますが、今年度 4 月にさかのぼって交付されます。また就学援助世帯等の参加生徒についても、参加費や保険料が補助されます。地域クラブへの補助が付いたことと経済的に部活動参加が難しい家庭への支援ができるようになったことは一歩前進です。しかし、指導者や練習場所の確保、運営主体の負担等がネックとなって地域展開自体がまだ十分に進んでいないことが課題です。

☆公民館施設整備事業費 のもぎき恐竜パーク(野母崎文化センター) 330 万円

野母崎文化ホールの空調が昨年 11 月に使用不可となったために、パッケージエアコンを導入する予算です。

委員会では、ホールの空調設備としてパッケージエアコンで十分なのか、半年以上空調がない状況で稼働させていたこと等が問題となりました。パッケージエアコンで不十分な場合には、スポットクーラー等を追加して適温を保つようにすると市から回答がありました。



桜馬場・片淵中学校の統廃合



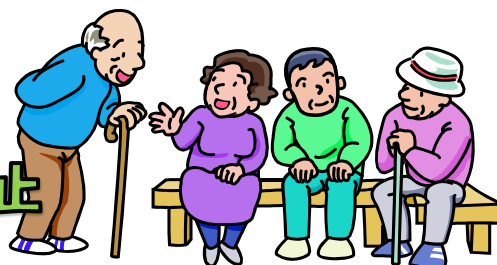
生徒数の減少や校舎の老朽化等を理由に市内で統廃合が進められています。今回の条例改正は、桜馬場中学校、片淵中学校、長崎中学校の3校の2段階統合の1段階目、桜馬場中学校と片淵中学校の統廃合です。2029年に2校を廃止し現在の片淵中学校に「桜坂中学校」として新設統合。桜馬場中学校跡地に新校舎が完成したのち2段階目として2034年に長崎中学校を統合する計画です。

3校の統廃合については地域自治会や関係小中学校のPTAなど関係者の合意のもとで進められ、「桜坂中学校」という校名も公募と投票により選定されています。ただ3校統合によって通学区域がかなり広くなり高低差も大きいので、スクールバスの確保や通学費補助のルールが必要になってきますが、その詳細がまだ詰められていないのが問題です。

まずスクールバスの運行については、バス会社はいま運転手不足で路線バスも減便等が続いている状態なので「現状の運転手数が確保できた場合」という条件付きなのです。また通学費補助については中学校の場合通常は通学距離6km以上で全額、3km以上で半額の補助がありますが、統廃合の説明の中で市教委は「高低差10mにつき補助基準を100m切り下げる」ことを説明



しています。しかしそのルールはまだできておらず、先に統廃合が進められた大浦中と梅香崎中学校でも、子どもたちが新しい学校に通い始めてから通学経路や通学距離に伴う通学費補助のルールが問題となりました。スクールバスや通学費補助のルールが確定してからの議案審査でなければならなかったのではないかという意見が出ました。



所管事項調査 高齢者交通費助成事業の廃止

今議会でも2028年度で廃止するとしている、高齢者交通費助成制度について説明がありました。

市は「交通費助成の代わりに、介護予防事業を行う」「介護予防参加で得られるポイントはスマホだけでなく紙カードも使えるようにする」などと説明します。しかしもともと高齢者交通費助成事業と介護予防事業は全く別物です。介護予防活動に参加できない高齢者だっているわけですから、介護予防事業がこれまでの交通費助成の代わりになるわけではありません。介護予防に参加できない高齢者が、例えば買い物や映画に行く時に交通費助成を必要としているとしたら、いきなり廃止ではなく縮小して続けることも考える必要があるのではないかという意見が出ました。

市の説明であまりにも「介護予防」が繰り返されるので、つい「誰も好きで介護状態になるわけではない」と思ってしまいました。

所管事項調査 **中部・南部学校給食センターリハーサル**の食品ロス

9月から稼働する中部・南部学校給食センターの夏休み中に行われるリハーサル計画が凄まじいフードロスを前提とした計画であることが一般質問で取り上げられました。

中部給食センターの1回目のリハーサルで4,500食、2回目7,500食、南部給食センターの1回目リハーサルで1,000食調理した給食13,000食はすべて廃棄。最終リハーサルの中部12,000食、南部4,000食は「児童・生徒が登校していたらできるだけ食べてもらいたいが、難しい場合には捨ててもよい」とリハーサル日程とともに学校に伝えられたそうです。

この問題は教育厚生委員会の所管事項でも取り上げられ、市教委からリハーサルの修正案が示されました。中部給食センターの1、2回目のリハでの調理数を削減しコンポスト化を行う、最終リハーサルには教職員、児童・生徒に登校を依頼し喫食してもらうという内容でした。

しかし 1、2 回目のリハーサルにおける廃棄食数は縮減されたと言っても 1 万食！他の自治体の開業リハーサル時の食品ロスの資料も示されましたが、7 つの給食センターで 11 万食以上が廃棄されていることがわかりました。

教育厚生委員会として、「調理配送リハーサル等における適切な対応を求める」申し入れを行うこととし、後日、正副委員長から議長へ、そして市教委へ申し入れが行われました。

